

働く、つながる、暮らす—
—コワーキング拠点を核とした
新しい地域コミュニティの形成

金沢大学 人間社会学域地域創造学類 奥田ゼミナール (指導教員 奥田恒)

代表者： 古郡 梓咲

発表者： 古郡 梓咲、浜野大輝、佐藤育、牛岩広海、尾場圭亮

参加者： 古郡 梓咲、浜野大輝、佐藤育、牛岩広海、尾場圭亮



はじめに

私たち、金沢大学奥田ゼミナールでは、「地方都市における若者の定着～若者に選ばれるまちの実現に向けて～」というテーマに基づき、会津若松市への新規政策として「コワーキングスペースをいかしたスマートまちづくり」を提案する。会津若松市では、IT 単科大学の会津大学や企業と連携し、IT 産業と暮らしの連動に力を入れ、住民生活に IT を広く取り入れている。この強みを生かし、ワーキング拠点を設けることで、スマートシティ改革を推進する。これにより、移住者の流入と関係人口の増加を狙うだけでなく、人口流出にも歯止めをかける。

将来展望としては、衰退気味の商店街の一角をリノベーションし、若者が集まるコワーキングスペースを設置することで、地域に新たな賑わいを創出する。会津若松市は、鶴ヶ城や東山温泉などの観光資源に恵まれ、歴史的背景を持つ一方、全国的な課題である人口減少と高齢化に直面している。会津大学でのヒアリング調査では、学生たちが都市部に流出し、卒業後に会津に残る人は少ないことが分かった。4 年生の能勢航羽さんは、「会津大学を卒業したらみんな都市部や地元に出ていく。会津に残る人はほとんどいない。行政やまちづくり、娯楽や地元企業などとの連携がまだ少ないこともその原因かもしれない」と語った。学生たちは都市部での娯楽や高収入を求め、IT を学びながらも地元に残る選択肢を見出しにくいのが現状だ。

その一方で、IT 企業の誘致や育成、自治体の支援、そしてリモートワークの普及が進む今、地方都市にとって新たなチャンスが生まれている。私たちが提案するコワーキングスペース「AIZUP（アイザップ）」は、そうした機会を捉え、AIZUP を拠点にまちの活性化を促す施策である。IT 企業や事業の成長、そして多様化する働き方を見越し、地域の活性化を促す。AIZUP という命名は、「会津（Aizu）をアップデートする」という意味を込めている。これまでの伝統や歴史を大切にしつつ、IT を活用して会津若松を新たな段階に進化させ、より住みやすく、若者に選ばれる魅力的な地域にしたいという願いを表現した。また、UP という言葉には、地域の活性化や暮らしの向上、そして若者たちの未来を後推したいという願いを込めた。

第一章 会津若松市の課題およびテーマの定義づけ

一節 会津若松市の現状分析

この章では、会津若松市の現状について簡単に述べていく。まず、会津若松市が抱えている深刻な問題として、まず人口減少と高齢化があげられる。図 1 で示すように会津若松市の人口は平成 7 年をピークに年々減少傾向にある。現在は約 12 万弱の人が暮らしている

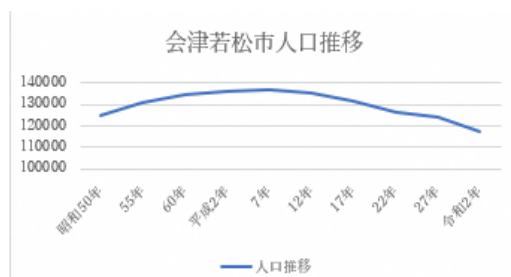


図1 会津若松市の人口推移（国勢調査をもとに作成）

会津若松市だが、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2050 年には約 7.6 万人

になると予測されている。

また、図2は会津若松市の年齢3区分別人口の推移について示している。図2を見て分かるように、年少人口や生産年齢人口の減少とは対照的に、老年人口は増加している。このまま状況が変わらなければ、老年人口を支えていくために生産年齢人口の負担がますます大きくなっていくと予想される。さらに、近年では娯楽

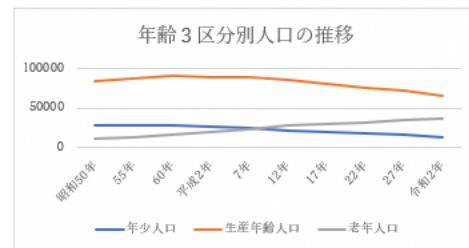


図2 年齢3区分別人口の推移 (国勢調査をもとに作成)

や高収入を求めて東京や大阪などの大都市に若者が集中する動きが加速しており、会津若松市でも大学卒業を機に都市へ働きに出る若者が増加している。

そこで、私たち奥田ゼミナールは、この会津若松市を、若者にとって過ごしやすいまちへと発展させるにはどのような手段を講じればいいのかについて考えることにした。

二節 会津若松のスマートシティ化について

会津若松市は、現在「スマートシティ化」に取り組んでいる。幅広い分野において、デジタル技術などの最新技術を活用したまちづくりを進めている。その中で、12分野の取り組みがあり、私たちはその中の地域活性化、経済分野に注目する。また、会津若松市のスマートシティの取り組みの一環として「スマートシティ Aict」の存在がある。「スマートシティ Aict」には県外からIT関連に強い企業が多く参入してきている。会津若松市はこれらの企業と結びつきを強め、市内でのIT化を推し進めている。

私たち自身、大学生活を送る中で、勉強や交流に適した場所が不足していると感じており、同じような悩みを持つ人たちと出会う機会も限られていると実感している。さらに、私たちが現地を視察した際、神明通り商店街には多くの空き店舗が目立ち、若者が集まれる拠点が存在しないことに課題を感じた。このままでは地域の魅力や活気が失われ、商店街やまち全体の衰退が進む可能性がある。こうした課題を解決するために、神明通り商店街にコワーキングスペース AIZUP を設置し、地域内経済循環の促進と人々が気軽に交流できる拠点を形成することを提案する。

第二章 「空き店舗を活用した創造・地域の拠点の場」

一節 AIZUP の概要 「あいづで、出会い、UP する」

私たちが提案するプランは、会津若松市の商店街の空き店舗を活用した新たなコワーキングスペース AIZUP を設置し、地域の拠点として機能させることだ。AIZUP は、単なる仕事場としてだけでなく、地域コミュニティを活性化し、若者の定着を促進する場を目指す。「あいづで、出会い、UP する」をコンセプトに、このスペースが、会津若松市に新たな価値と賑わいをもたらすと考え。

二節 AIZUP ターゲット

会津若松市内で学ぶ学生と都市部から移住や二拠点生活を考える若者の 2 つの層に焦点を当て、それぞれのニーズや課題に合わせたアプローチを行う。まず、市内の学生にとって、AIZUP は重要な拠点となる。彼らは新しい経験や刺激を求め、将来のキャリアを模索する一方で、地元での就職先が見つからず、卒業後に都市部へ流出してしまう。こうした若者にとって、AIZUP は学びや意見交換の場として活用されるだけでなく、地元企業や起業家との接点を生む場になることが期待される。キャリアイベントやインターンシップの情報提供を通じて、地域内でのキャリアパスを可視化し、卒業後も会津若松市に留まりたいと思わせる環境を整えることが重要であると考え、AIZUP を通じて、移住者と地元の若者が集まり、交流し、地域とのつながりを深めることで、会津若松市を「若者に選ばれるまち」にしていくことを目指す。

次に、都市部からの移住希望者は、クリエイター、フリーランス、IT エンジニア、スタートアップ起業家など、柔軟な働き方を求める若者が中心だ。彼らは都市の利便性と自然の豊かさを両立させた生活を望む一方で、地方でのビジネスチャンスへの不安や地域コミュニティへの溶け込みが課題となっている。こうした若者に対して、AIZUP をきっかけに地方での暮らしを魅力的に感じてもらうことを目指す。また、移住支援プログラムや現地での起業・仕事紹介の仕組みを整え、不安を解消するサポートを提供する。

三節 AIZUP の二つの仕掛け

1. 若者の定着と交流の促進 「イベント・交流会の開催」

AIZUP は、地元の学生や若者にとって学習やプロジェクトの拠点となるコワーキングスペースを提供するだけでなく、地域企業や起業を目指す人々が出会い、交流する機会を創出することで、若者の都市部への流出を防ぎ、地域への定着を促進することを目指している。各分野で活躍するビジネスパーソンやアーティストを招いたイベントやワークショップを定期的に開催し、多様なテーマを取り上げることで、IT やクリエイティブ分野に限らず、地域の伝統工芸や食文化に触れる機会も提供する。これにより、さまざまな興味を持つ若者を引きつけ、「あいづで、出会い、UP する」というコンセプトを実感できる場を形成する。

さらに、利用者が自発的にイベントを企画・運営する文化を醸成することで、若者たちが「自分ごと」として地域に関わる姿勢を育むことが期待される。例えば、利用者同士で進行中のプロジェクトを発表し合うピッチイベントや、異業種間のブレインストーミング会を実施することで、主体的な参加と協働の場を提供する。また、先輩起業家や専門家がメンターとして若者にアドバイスを提供する「ピアサポート」の仕組みを整え、継続的な支援を行うことも重要である。このように、AIZUP は若者の成長を支えるだけでなく、起業支援プログラムの実施や地元企業とのマッチングを通じて、新しいビジネスやプロジェ

クトを生み出すプラットフォームとしても機能する。ビジネスプランコンテストの開催や、企業が直面する課題の解決に向けた共同プロジェクトを進めることで、若者が地域への貢献を実感しながら自己実現を図ることが可能となる。

また、交流の場としての役割を強化するため、コワーキングスペースの一角に「AIZUP ラウンジ」を設置し、利用者が気軽に集まり雑談やアイデア交換を楽しめる空間を提供する。このカジュアルな環境は新しいつながりを自然に生むだけでなく、ディスカッションを通じた共同学習の場としても機能する。こうした取り組みを通じて、若者の愛着が深まり、長期的な定着につながることが期待される。

2. 空き店舗・空き家の活用による空間デザイン

私たちは、会津若松市の神明通り商店街や市街地に点在する空き店舗をリノベーションし、地域資源を活かしたコワーキングスペースとして再利用することを提案する。ターゲットは地元や都市部の若者を中心としながらも、地域住民や観光客も気軽に立ち寄れる「開かれた空間」を目指している。AIZUP のデザインには「創造的な体験」と「多様な働き方への対応」を両立させるための工夫を凝らし、誰もが自分らしく過ごせる環境づくりを意識していく。

コワーキングスペースの内装は、機能性と居心地の良さを両立させた「クリエイティブな空間」を追求する。例えば、スペース全体に温かみのある木材や地域の伝統工芸品をアクセントとして取り入れ、利用者が会津の文化を自然と感じられるようにする。個室はあえて設けず、広々とした開放感のあるレイアウトを採用することで、利用者同士のコミュニケーションを促し、新たなアイデアが生まれる環境を構築する。壁面にはホワイトボードや黒板を設置し、気軽にアイデアを書き出し、プロジェクトを進めるためのメモを共有できる場を提供する。また、一日中同じ席で作業をすることに疲れないよう、利用者の気分や作業内容に応じて選べる多彩な座席を設置する。スタンディングデスクや、柔らかいソファ席、窓際のカフェスタイルの席など、気分転換ができる空間を随所に配置し、利用者が自由に動き回れるようにする。これにより、単調な作業を避け、集中力を維持しながら長時間の作業にも対応できる。

協働で創造する場の設計も AIZUP の中心的な要素である。大テーブルや共有スペースでは、利用者が偶然の会話から新たなアイデアを生む場を提供する。異なるバックグラウンドを持つ人々が出会い、協働し、互いにインスパイアし合う「共創の場」を実現するため、ファシリテーターを招いたワークショップや、企業とのコラボレーションプロジェクトも展開する。さらに、壁面には地域の課題やアイデアを集約する掲示板を設置し、参加者が随時意見を出し合える仕組みを整える。AIZUP は、静かな作業の場としてだけでなく、気軽に会話が生まれる場所としての役割も担う。地域住民も参加できるイベントを定期的で開催し、日常的なつながりを深めることができる空間へと発展させる。これによ

り、コワーキングスペースが単なる「作業場所」にとどまらず、会津若松市をつなぐハブとなることを目指している。

このように、空き店舗や空き家を活用した AIZUP は、地域資源と新しい働き方を結びつける「創造の空間」を提供する。働く人々が自由な発想で挑戦できる場を提供することで、地域に新たな価値をもたらし、会津若松市全体の活性化に寄与する拠点となることを期待する。

第三章 運営方法

一節 実施体制

AIZUP の運営は基本的に無人で行っていく。無人で運営することのメリットとしては、人手の確保に困らない、人件費を抑えることができる、24 時間体制で運営することができるなどがあげられる。コワーキングスペースの利用者は、すでに会津若松市で使われている「会津若松プラス」というアプリを登録し、専用の機械に QR コードを読み込ませることで入退室できるシステムを取り入れる。また、空き情報や予約をするプラットフォームとしての利用も考えている。「会津若松プラス」とは、スマートシティの取り組みの一環で、地域住民の情報やニーズをデータによって分析し、住民に寄り添ったサービスを提供するためのものである。

加えて、「会津若松プラス」を導入することによって利用者の情報を知り、AIZUP でのイベントの企画に役立たせることができる。具体的には、利用者の興味や利用時間帯に応じて異業種交流会や企業説明会、スマホ教室というようなイベントの運営が考えられる。ほかにも AIZUP を利用して、多様なイベント情報のような行政が発信したいことを住民に届ける場所としても活用することができる。

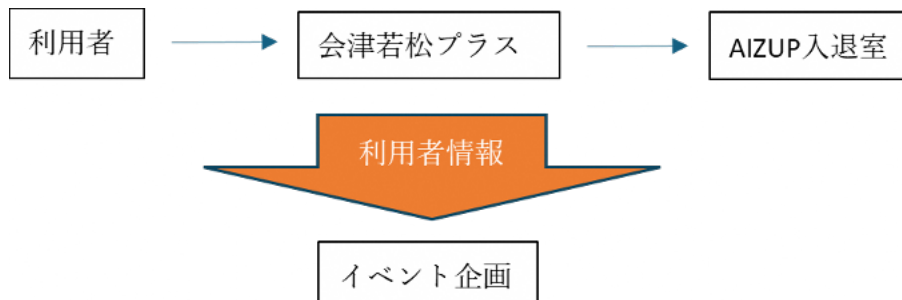


図 3

次に AIZUP の料金プランについて説明していく。「月額契約」と「ドロップイン」の 2 種類を採用する。「月額契約」の場合、月 3000 円を支払うことで一か月間使い放題とし、「ドロップイン」の場合、1 日あたり 600 円で使うことができることにする。さらに、学生が AIZUP を利用する場合は、「月額契約」と「ドロップイン」とともに半額とし、メインターゲットである多くの学生の取り込みを図る。

	月額契約	ドロップイン
学生	1500 円	300 円
一般	3000 円	600 円

図 4

最後に、運営団体は自治体で、トラブル時の対応や定期清掃は外部の民間企業に委託する形をとる。そうすることで、自治体が人手不足で悩むことなく安定して運営ができると考えた。

二節 会津コインの活用で地域経済活性化

デジタル地域通貨「会津コイン」は、既存の大手のキャッシュレス決済では地域の外に出てしまっているお金やデータを、できる限り地域に残し、地域での経済循環やデータを活用した取り組みである。クレジット決済やQR決済により、地域の外に毎年5億円ほどの大金がでていっていることを市役所へのヒアリングで知った。会津コインを使用することで、都市部へのお金の流出を防ぎ、地域内決済を促進することから、地域経済活性化が期待できる。



実際の会津コイン加盟店

会津コインの利用者は現時点で約一万人となっており、この人数を増やし地域経済を活性化していくことが課題となっている。そこで、AIZUPの利用料を会津コインで支払うことができるシステムの導入を提案する。会津コインは、銀行口座から引き落とせるようになっていて、一度登録するとその後はキャッシュレスで簡単に会計をすることができる。また、会津若松市内では、現在、548店舗に会津コインが導入されている。商店街をはじめとして、コンビニやドラッグストア、居酒屋などで利用ができる。AIZUPをきっかけに会津コインの周知、利用者を増やし、地域経済の活性化を図る。

第四章 予算概要とその実現可能性

一節 経済的実現可能性について

主な資金調達方法は、「自治体の財源」「補助金・助成金の活用」だ。特に「補助金・助成金の活用」では、国としてもこの新しい働き方を推進するための拠点としてのコワーキングスペースの整備に、国や地方自治体の補助金・助成金がコロナ後により多く用意されるようになった。2022年時点の補助金・助成金を、具体的にいくつか挙げると、「デジタル田園都市国家構想推進交付金」の中の「デジタル実装タイプ」「地方創生テレワークタイプ」は、事業費の3分の2または2分の1が国から補助される。補助金を活用することで、安定した資金調達が可能になるだろう。

コワーキングスペースの規模や選択する設備次第だが、初期費用として 500 万円程度が目安となっている。コストを抑えた開業のメリットとしては、初期コストを抑えることでのリスク軽減と事業収支の改善が挙げられる。コワーキングスペースを開業する際に必要な主な経費は「家賃・保証金」「内装工事費用」「設備費用」「人件費」だ。AIZUP の場合、空き店舗の活用で、物件購入費用を安く抑えることができると見込んでいる。

設備費用は、メインテーブルと椅子（8 人掛け）、スマートロックの設置、チェックインデバイス、アイパッドスタンド、防犯カメラ 3 台、BGM 用スピーカー、卓上パーテーション、ウォータースタンド、観葉植物、壁設置用の本棚、ビジネス書 20 冊、荷物置き、ゴミ箱（大）× 2、ゴミ箱（小）× 3・延長コード、WIFI ルーター、その他小物類、店舗ウェブサイトの作成費用、店舗パンフレットの作成費用が主になり、約 100 万円を見込んでいる。運営費用の中で非常に多くの経費がかかる項目の一つは「人件費」だ。そこで、IT システムを活用し、無人化での運営を行う。要する費用は、以下のように見込まれる。

- 1) 受付スタッフ⇒受付システム・サービスで対応完全無人対応
- 2) 電話対応⇒オンラインでの自動化と電話代行サービスの利用
- 3) 店舗の清掃⇒1 日 2 時間程度のみ有人対応（1 日 2 時間程度で月 10 万円予算）
- 4) 消耗品の補充や管理⇒清掃スタッフと兼任で対応（清掃と兼任のためコストなし）
- 5) 入会、退会、決済等の対応⇒オンライン自動化で対応 会津コイン使用
- 6) 店舗の予約対応⇒オンラインで自動化（0 円から利用可能）
- 7) 求人活動⇒必要なし
- 8) 人材教育⇒必要なし
- 9) 社会保障⇒必要なし

これらの運営方法をとれば初期費用に加えて経費月 10 万円の運営コスト、年間 120 万ほど予算があれば十分に継続的な運営が可能である。

二節 コワーキングスペースの今後の展望、政策効果

コワーキングスペースの意義や効果を肯定的に捉える一方で、いくつかの課題も見逃せない。私たちは AIZUP の価値は、「価値創造の場としての可能性」「地域活性化への寄与」「コミュニティのハブとしての役割」の 3 つだと考えている。まず、異業種や多様な分野の人々が出会い、交流することで新たなビジネスアイデアやプロジェクトが生まれる「価値創造の場としての可能性」がある。こうした「知の再結合」による価値創造は、まちづくりの活性化に重要な役割を果たす。また、地方都市においてコワーキングスペースは、起業家やリモートワーカーの受け皿となり、新しい働き方を提供する。その結果、移住や雇用が促進され、地域活性化に新たな流れを生む可能性がある。さらに、誰もが利用できるオープンな空間として機能することで、地域内外の人々が交わり、コミュニティが形成されていく。IT 関連のイベントやワークショップを通じて、参加者のまちへの愛着や帰属意識が高まる効果も期待できる。

一方で、コワーキングスペースの利用者層が限定される問題も無視できない。主に学生やフリーランスやリモートワーカー向けの施設であるため、他の層には、利用価値が低い場合もあり、交流が特定の層に偏る可能性がある。また、利用者が少ない場合、経済的に持続可能な運営が難しくなり、補助金に依存するリスクもある。一時的な盛り上がりがあっても、支援が途絶えると衰退してしまう懸念がある。さらに、まちづくりを進めるには、教育、医療、交通などの生活基盤の充実も重要であり、コワーキングスペースだけで地域全体の活性化を支えることは難しい。コワーキングスペースの利用者層が限定される問題を解決するには、幅広い世代や多様なニーズに応える場へと転換することが重要である。まず、様々な層を取り込むために、それぞれに向けたプログラムの導入を検討していく必要がある。例として、高齢者向けに IT 講座や地域文化をテーマにした交流イベントなどの開催が挙げられる。

経済的な持続性の確保も重要な課題である。そのために、企業スポンサーや地域事業者との連携による収益モデルを構築し、共同イベントの開催やプロジェクトスペースの貸し出しなどを通じて収入源の多角化を検討していくことが有効だ。

さらに、ゆくゆくは、コワーキングスペースを教育、医療、交通などの生活基盤と連携させることが求められていくだろう。たとえば、地域の医療機関と協力して健康セミナーを開く、公共交通機関との連携でアクセスを改善していくことなどが挙げられる。他の政策や機能との融合の可能性をまだまだ秘めていると感じている。

これらの取り組みを通じて、コワーキングスペースは単なる仕事場ではなく、幅広い層が集い、学び合い、新しい価値を生み出す拠点として機能するようになる。こうした多様な役割を担うことで、地域社会の活性化に貢献し、「若者に選ばれるまちづくり」の実現に向けた重要な要素となることが期待される。

第五章 終わりに

私たちが提案する事業案は、「若者に選ばれるまちづくり」を実現するための、会津若松市の地域活性化の拠点となるコワーキングスペースの設置だ。人口減少が進む中で持続可能なまちづくりを実現するのは容易ではなく、複雑な課題でもある。しかし、会津若松市の IT を活用したスマートまちづくりという目標は、明確なビジョンと継続的な取り組みによって少しずつ達成できると考えている。AIZUP は、豊かな自然と都市の風景が融合し、幕末や明治の歴史が色濃く残るこの街の中心に位置し、「あいづで、であい、UP する」をコンセプトに街の拠点として機能していく。私たちは、AIZUP が未来に向けて人と事をつなぎ、新しい文化や産業が生まれる拠点になることを目指している。地域住民や会津を訪れた人が落ち着いて仕事や学びに集中できる場所を提供し、新たな出会いやアイデアが生まれる場が、会津若松市が目指す「若者に選ばれるまちづくり」につながると信じている。

〈参考文献〉

会津財布 会津コインが使えるお店 2024 年 9 月 30 日確認

<https://service.paycierge.com/aizu-zaifu/aizu-coin/shoplist/index.html>

会津財布 会津財布とは 2024 年 9 月 30 日確認

<https://service.paycierge.com/aizu-zaifu/aizu-coin/>

会津財布 事業者の方へ 2024 年 9 月 30 日確認

<https://service.paycierge.com/aizu-zaifu/aizu-coin/merchant/index.html>

会津若松市のスマートシティの取り組み～スマートシティ会津若松市からスーパーシティへの挑戦 2024 年 9 月 30 日確認

<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/38546.pdf>

会津若松市パンフレット 2024 年 9 月 30 日確認

https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2023072400026/file_contents/SCaizu_pamphlet_2021.pdf

会津若松商工会議所ホームページ 経営支援・補助金・助成金 商店街空き店舗対策補助事業 2024 年 9 月 30 日確認

https://www.aizu-cci.or.jp/support/akitenpo_taisaku/

安心安全施設設置等事業補助金 会津若松ホームページ 2024 年 7 月 2024 年 9 月 30 日確認

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2024032700019/>

スマートシティ会津若松において AI が果たす役割 2024 年 9 月 30 日確認

https://www.soumu.go.jp/main_content/000762568.pdf

スマートシティ官民連携プラットフォーム 2024 年 9 月 30 日 確認

<https://www.mlit.go.jp/scpf/index.html>

「スマートシティ」のまちづくりで ICT 先端都市を目指す 2024 年 9 月 30 日確認

https://www.jamp.gr.jp/wp-content/uploads/2020/12/136_07.pdf

スマートシティの実現に向けて【中間とりまとめ】 平成 30 年国土交通省都市局 2024 年 9 月 30 日確認

<https://www.mlit.go.jp/common/001249774.pdf>

地域課題解決型先端サービス実装化支援事業補償対象事業認定審査会の結果について

会津若松市ホームページ 2024 年 7 月 2024 年 9 月 30 日確認

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2022100500011/>

地域課題を解決するためのスマートシティサービス事例集 令和 3 年

総務省「地域課題解決に向けたスマートシティの推進に関する調査」2024 年 9 月 30 日確認

https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/pdf/r4_sc_besshi5_4.pdf

地域情報ポータルサイト「会津若松+（プラス）」とは 会津若松市ホームページ 2024 年 3 月 2024 年 9 月 30 日確認

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2015121000042/>

電子情報通信学会 2022 小特集 和田智孝 2024 年 9 月 30 日確認

https://www.ieice.org/~cs-edit/magazine/ieice/spsec/Bplus62_sp.pdf

内閣府 政策統括官 2021 年「地域の経済 2020—2021 地方の新たな人の流れの創出に向けて」の公表にあたって 2024 年 9 月 30 日確認

https://www5.cao.go.jp/j-j/cr/cr20-21/chr20-21_01-03.html

令和 6 年度ふくしまぐらし。×テレワーク支援補助金の募集について 福島県ホームページ 2024 年 9 月 30 日確認

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11025b/teleworkijuhojo.html>

まちなか出店応援補助金 会津若松市ホームページ 2024 年 7 月
2024 年 9 月 30 日確認

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2024031300043/>